

令和2年度 文京学院大学文京幼稚園 学校関係者評価委員会（ご意見のまとめ）

令和3年7月12日

令和2年度は、3月に予定していた学校関係者評価委員会開催を中止致しました。令和3年度の1学期予定の委員会開催も、都内における感染者増大の状況を鑑みて再度集まりは見送らせていただきました。学校関係者評価委員8名の皆様には、それぞれ「保護者アンケート結果」「教員自己評価結果」など資料を郵送し、書面で評価を頂戴しました。委員皆様からのご意見の抜粋を項目ごと、以下に掲載させていただきます。

いただきましたご意見は真摯に受け止め、園運営を少しでも改善できるよう努めてまいります。

評価項目	評価（本園の行った自己評価に対するご意見・ご感想）
<b>重点目標1</b> 1-① 1-② 1-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登園時に、元気に挨拶する園児に対して、先生が褒めてくださる姿をよく目にする。子どものやる気を引き出し、挨拶の大切さを自然に教える良い方法だと思う。</li> <li>●挨拶はどの国でもコミュニケーションの始まりである為、園の素晴らしい取り組みと共に、家庭でも「おはよう」、「ただいま」「お帰りなさい」などの挨拶をし合う習慣づけを促していくと良いと思う。</li> <li>●感謝の気持ちは素直な心の現れです。人からされて嫌なことは人にしないという以上に、プラス志向になりますね。また、お互いを認めるという基本姿勢は、教員が自分の考えをきちんと伝えお手本を見せることにより、身に付くと思います。</li> <li>●コロナ禍であっても、「集まりの場で考える機会」を持たれたことや「協同的な関わりができる活動」を意識的に設けられ、友達関係を深めるよう配慮されたことは素晴らしいことだと思う。</li> </ul>
<b>重点目標2</b> 2-① 2-② 2-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年度は、コロナ対応に追われた1年間で、教員の負担も想像以上であったと思われるが、令和元年度の振り返りを活かしたため、重点目標1、2共に安定した取り組みを実施していたことが分かる。指導計画に反映させ、子どもの発達段階に合わせるという具体案の実践が相乗効果となり、バランスが取れている。</li> <li>●人と関わることにより、より多面的なものの見方や考え方ができるようになることが評価から読み取れた。言葉にしたり、表現したりする機会が多いと、そのバリエーションも多くなるのだと思うが、機会を作るのはやはり教師の働きかけや環境作りなのだと思う。さらにあまり予測し過ぎず、色々な機会の中から生まれることをキャッチできると良いと思う。</li> <li>●コロナ禍での心の解放は、子ども達の救いになったことと思う。子どもがやりたいと思ったことを深める材料や時間等を保証できる園は素晴らしいと思う。</li> </ul>
<b>教員自己評価結果</b> 1 保育内容の工夫 2 環境構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ対応に追われる中、これまでとは異なる教育環境の中でも「特別な行事ができなくても日々の園生活を大切に」との方針を徹底されたことに敬意を表します。感染防止の消毒作業は大変だと思いますが、今後も継続して取り組んで頂ければと思います。</li> <li>●アンケートにも多く寄せられていたが、コロナ禍において園行事を単に中止とするのではなく、縮小や内容の変更など工夫して行ったことが良かった。今後も大変な状況ではあるが、同様に行っていたらいいと思う。</li> <li>●保護者アンケートの記述に、音楽に関する内容が書かれていた。・・・感染予防の理由から、歌や音楽に親しむチャンスが少なかったかと思うため、昨年度の表現遊びと同様に、今年は感染予防を考えながら、音楽に親しむ機会が増えると良い。</li> </ul>
<b>教員自己評価結果</b> 3 幼児への対応 4 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもへの対応は教員一人ではできなくなっている。連携が上手くいくと、園が活性化します。</li> <li>●園児を理解することは、活動の中で一番大切なことだと思います。幼稚園では、学年チームの教員同士が連携し、情報交換を行い、多面的に子どもの理解を図っていることが素晴らしいと思いました。</li> <li>●評価アンケートなど保護者からの意見を積極的に取り入れ、より良い園にするための改善が図られており、これからも続けていただきたい。</li> <li>●コロナ禍であっても、学校や幼稚園は安全なところ、と思っている保護者の方が多くいると思います。この信頼に応えるべく、日々努力している教職員の皆様には頭が下がる思いです。</li> </ul>
<b>教員自己評価結果</b> 5 研修と研究 6 安全管理 7 職場環境 学年チームの関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもも危険に目が向くようになると、子ども同士で注意し合えるようになり、自分の身だけでなく、友達の身も守ることにつながると思います。</li> <li>●教員の資質向上には研修と研究は欠かせません。「園の教育課程作成」を通して、3学年の発達段階の共通理解が深まっていることは重要だと思います。</li> <li>●様々な場面で、教員同士の話し合いが取り入れられているのは、子どもを理解する上でも生活の質を上げていくためにも必要なことだと思う。小グループでの話し合いの実践がとても良い。</li> <li>●コロナ禍で、教員の仕事量も更に増えて大変だと思うが、園長や役職者の負担増にならないように、効率化を進めて、教員一人ひとりの負担を減らしていただきたい。保護者のボランティアも積極的に依頼していったらどうか</li> </ul>